

森茂先生への感謝

中澤純一

森茂岳雄先生は、2024年3月10日、膵がんと御闘病の末、満72歳でご逝去された。森茂先生が闘病される直前まで、お近くでご一緒させて頂いていたので、こんなにも早く先生が逝ってしまうとは思ってもよらなかった。1月末に「異己プロジェクト」の事業の関係で新潟県上越市に先生ご夫妻と3泊4日で訪問し、研究はもちろんのこと、滞在した旅館の夕食は、美酒佳肴が並びあまりにもおいしかったのでつい食べ過ぎ飲み過ぎてしまった。先生もいつもと変わらずお食事を召し上がっていたので、罹患されているとは思わなかった。森茂先生も、そのように思われていなかったのかもしれない。上越訪問後、2月の上旬も森茂先生とJICA地球ひろばやJICA横浜海外移住資料館の仕事をご一緒させて頂いた。その後、先生は療養生活に入られた。

森茂先生と初めて出会ったのは、2015年度に開催された「JICA地球ひろば 国際理解教育/開発教育指導者研修」だった。本研修は、全国で国際理解教育・開発教育を実践する教員を対象に年間を通して国際理解教育や開発教育の理論や授業実践を学ぶものであった。講師として登壇された森茂先生の講話を拝聴する機会があり、森茂先生の実践と理論を往還

した講話は大変興味深く、研究に対する思いが強くなった。さらに、本研修において、参加者を代表してワークショップ実践をする機会を頂いた。その際も、森茂先生は私のワークショップに参加してくださり、助言や意見を頂いた。このような森茂先生との出会いから、森茂先生の元で学びたいという思いが熱くなり、中央大学大学院文学研究科教育学専攻博士課程後期課程にお世話になることになった。他大学大学院教育学研究科修士課程を修了し、すぐに教壇に立った私だが、再び大学院において研究する機会を頂いたのも森茂先生のお陰である。森茂先生からは、多文化教育をはじめ国際理解教育やグローバル教育における理論と実践等、多岐にわたってご教授頂いた。森茂先生のご指導の一つ一つが研究のみならず、日々の授業実践に大いに役立てることができた。森茂先生と出会えたことが、研究に真摯に向き合うことの大切さ、教師としての自己成長を促すことにつながり、学校現場の教員から研究者を目指すきっかけを頂いた。そして、大学教員としての今がある。2015年に東京は市ヶ谷（JICA地球ひろば）で森茂先生と出会わなければ、今の自分はいないと言っても過言ではない。

森茂先生は、私のこれまでの人生の中で、学問に対し大きな道標を示してくださった人生の師である。そして、森茂先生は私にとっての理想の研究者像である。

森茂先生との思い出を書き出そうとすると、ここには書き切れないほどである。先生との思い出の一つ一つを忘れずに、一層の精進をしていきたいと思う。

森茂先生、たくさんのご教授頂きありがとうございました。先生に最初、「博士課程修了後は先生の研究を継ぎたい」と伝えた際、先生からは「自分の好きな研究をなささい」と言われたが、それでも譲らず私が「自分の好きな研究が先生の研究であり、先生の研究を継承発展させていきたい」とお答えしたら、先生は喜んで継ぐことを快諾してく

れました。その後、先生がことある度に「僕の研究を中澤君が継いでくれるから」とおっしゃってくださったのは、嬉しい反面、身の引き締まる思いでした。本当は、もっと先生のもとで多くのことを学びたかったです。ただ、そのようなことをいつまでも言っていたら先生に怒られそうです。先生の研究に対するシビアな姿勢を見習い、研究に邁進していきます。まだまだ安心できない教え子かもしれませんが、天国で見守ってください。改めて、先生から頂いた数えきれないご恩に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。

(勤務先：東京未来大学)